



動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

93.6.11 No.3809

反合・運転保安確立！今春闘争の成果—夏季物販闘争の成功—今秋決戦への大いなる展望拓く

第30回定期委員会 6・16！ に集まる！

六月一六日、動労千葉第三〇回定期委員会が千葉市民会館において開催される。

今委員会は、第一九回定期大会以降とりわけ今春連続闘争（原職奪還・格差粉碎を中心とした三波ストライキ）の成果を全体化し、崩壊する「分割・民営化」体制—その「見直し」策である「JR東日本鉄道部門五万人体制」「貨物八千人体制」打倒、七月ダイヤ改訂今秋ダイヤ改訂止闘争を貫く、闘う側からの回答展望と展開を、全国鉄労働者に事実として示し抜く意味において決定的重要性を帯びている。

内外勤は高年齢者対策に

千葉支社は、この間各運転職場での五五歳出向や退職に伴う異動の事前通知を行っている。しかし、この異動について当局は、「内外勤については本線運転士からの登用を行わない」という考え方の下に、安房鴨川派出には検査係、木更津支区内勤には助役試験合格者の指導員を充当するなどしている。

言うまでもなく、動乗改悪以降の徹底した労働強化のなかで、運転士の高年齢者対策の実施は、差し迫った深刻な問題となっている。当局はこのような状況を百も承知しながら、運転士が下りる場所を全て奪い尽くそうというのだ。運転士は体がもたなくなったら辞める、ということだ。こんなことは絶対に許せない。

しかし、もうひとつ背景は、運転士の要員需給が逼迫していることにある。千葉支社では、今年度中にも運転士に欠員が生じかねない状態にある。しかも秋には「時短」を控えている。だからこの四月の運転士試験受験の募集では、わずか車掌を一年間しか経験していない者まで対象としたのである。

動労千葉の強制配転者や資格保有者はあくまでも排除しながら、運転士の要員が逼迫しているからと、外勤まで検査で置き換え、また、自ら語っていた「車掌経験二年」の基準も覆した募集をするようなやり方を認めることはできない。

輝きを増す反合・運転保安闘争

習志野運輸区での車軸転落事故の発生、自動給油器導入時の設置ミス—短絡事故の発生、ダイヤ改提案での数十箇所のミス、等々、組織としての業務遂行能力の瓦解、安全管理能力の解体状況は目を覆うものがある。

合理化—要員減らしと労働強化、業務よりも労務政策が全てに優先される管理体制が、これほどの危機を招いていると言える。

その意味においても、われわれの闘いの原点である反合・運転保安確立の闘いこそ、「国鉄

分割・民営化」—「JR体制」打倒の一本の大道として、輝きをいや増している。この闘いの地平線が目前に迫りつつある今日、反転攻勢の果実を掴むものこそ我が手元にある。それこそ全国鉄労働者の願望を具現化するものなのだ。

真の反戦闘争の高揚を！

さらに今委員会は、PKO派兵（カンボジア・モザンビーク）—「政治改革」—天皇制イデオロギー攻撃の激化の中で、階級

的責務をかけた、「戦争国家体制」打倒の闘いの旗色をより鮮明にし、「連合」情勢を根底から覆す、日本労働運動の再生・再建を担いうる勢力としての位置を決定的にすることに。小牧現地—北海道現地—沖縄現地と日本中を席卷した闘いを、六・一三反戦全国集会の大成功へ—その力の全てを東京都議選の勝利へと結びつけよう！
今委員会の成功—夏季物販闘争の躍進を今秋決戦の勝利へ！

機関誌動労千葉NO16（一九九三春号）が出来、発行されました。

内容は、本年一月二二—二三日に行なわれた「第二回全支部活動家研修会」での、島崎光晴（経済学研究者）片倉秀夫（評論家）両氏の講演、そして二月

二八日の「国鉄分割・民営化—〇年を問うシンポジウム」での提起と討論となっています。それぞれの内容が、今日の情勢を具体的に解剖し、解明している点からも、今後の闘いの糧として全組合員が活用されることを期待します。

動労千葉 特集 ● 国鉄分割・民営化十年を問う

動労千葉

NO.16
1993.春

〈特集〉国鉄分割・民営化 10年を問う

—時代を撃ちつづける指標—

〈分析〉日本はどこに

むかおうとしているのか

—90年代の政治・経済を見通す—



機関誌編集委員会 編集